

アサガオのような笑顔を増やそう



仮設住宅へグリーンカーテンを設置するプロジェクトにご支援ください。

3月11日の東日本大震災から3か月が過ぎようとしています。寒さとの戦いだった被災地も夏を目前とし、“暑さ対策”が課題となっています。そこで、自然環境復元協会では自然のチカラを生かし夏の日差しを和らげるアサガオの『グリーンカーテン』を設置することで、被災地の皆さまを支援するプロジェクトを進めています。仮設住宅、避難所、学校へ設置するための資金が不足しています。少しでも多くの方にアサガオのような笑顔を！皆さまのご支援をお願いいたします。

なぜ仮設住宅は暑くなるのか？

建築素材が何を使われているかによりますが、一般的にプレハブの素材は壁の厚みが薄く、特に屋根と屋根裏の厚みも少ない構造になっています。当然ながら本格的な建築構造の建物に比べて外の熱を遮断する効果は低いと言えます。つまり外気温をそのまま室内に入れてしまい、さらに熱を閉じ込めた上、温室効果的に余計に高くしてしまうことさえあります。

グリーンカーテンで“暑さ対策”と“笑顔”を

外気の高熱を建物のなかに入れられないために、緑で覆うことは「日陰」のみならず、みどりが生み出す清浄な空気で涼感を得られる効果もあります。また、植物には“癒し”効果があります。満開のアサガオを見ることで、被災地の方々の心が少しでも安らぎ、アサガオのような笑顔になればと願っています。自然環境復元協会は、自然のプロ集団です。栽培は、植物の専門家、土壌の専門家、建築設計の専門家が集まり、設置・栽培・撤去まで管理いたします。

育てるのは宇宙を旅したアサガオです。

子どもたちと一緒に育てることで、子どもたちの未来へ夢と希望を。

JAXA・(宇宙航空研究開発機構)より、宇宙フライト2代目のアサガオとヒマワリの種子を寄贈いただきました。種は発芽までは、自然環境復元協会が育成し、苗の状態被災地に持ち込み、被災地の子どもたちと一緒に設営します。生育の状況は随時ご報告いたします。



6,000円で
仮設住宅1軒に
グリーンカーテン
を設置できます。



写真提供：NASA/JAXA

宇宙フライト2代目種子とは？

2008年3月11日、JAXA土井隆雄宇宙飛行士は教育用試料の植物種子等を携えて国際宇宙ステーション(ISS)へ向けて飛び立ちました。

その中に含まれていたヒマワリ種子もISSきぼうモジュールでの9か月近くの滞りを経て、無事地球生還を果たしました。2010年、専門委員・茨城大学井上栄一先生の研究室にてその一部が栽培され、同年秋以降、数多くの種子が無事収穫されました。

自然環境復元協会は国税庁の指定寄付金として減税の対象になっています。詳しくは、自然環境復元協会ホームページをご覧ください。領収書の発行が可能です。入金後、お名前、ご住所、電話番号をご連絡いただきますようお願いいたします。

震災支援金特別口座

【銀行名】三菱東京UFJ銀行 【店名】神田支店 【店番】331 【口座番号】普通 0139756
【名義】特定非営利活動法人自然環境復元協会

注) いただきましたご寄付は、指定がない場合、震災支援のために活用させていただきます。グリーンカーテンプロジェクトのみにご支援いただく場合には、その旨をご連絡いただきますようお願いいたします。

企画・運営
お問合わせ



認定NPO法人

自然環境復元協会

Association for Nature Restoration and Conservation, Japan

東京都新宿区高田馬場1-3-13-301

TEL:03-5272-0254 FAX:03-5272-0278 info@narec.or.jp

NAREC(ナレック)で検索ください

NAREC

検索

2011年宇宙のタネ

タネは旅する。

風に乗ったり、水に流されたり、動物に運ばれたり。
動物の体にくっつくだけでなく、食べられ、糞として別の場所に落とされることもある。
もちろん消化されずに生き延びる。

みずからはじけ飛ぶタネもある。
放物線を描いてどこかに落ちる。

2008年宇宙にはじけ飛んだタネは、すぐには落ちてこなかった。
スペースシャトル「エンデバー」に載せられ、地球周回軌道に入った。
ISS(国際宇宙ステーション)にドッキングし、保管室に移された。
地球の重力を離れ、9ヶ月間浮かんでいた。

タネは眠る。

眠っている間に遠くに運ばれる。
眠りながら風に乗る、眠りながら水に流され、眠りながら動物にしがみつく。
アサガオのタネも、眠っている間に宇宙に運ばれた。

約4,200回地球を回った。
その間、地上ではさまざまなことが起こったが、タネは知らずに眠っていた。

眠っているタネはカラカラに乾いている。
でもいちばん大事なところ、将来、植物のからだになるところだけはちょっと水を含んでいる。
それが生きているしるしだった。

寒くはなかった。
宇宙飛行士も暮らせる、ふつうの温度だった。

タネは目覚める。

9カ月後、気が付いたら地上に戻っていた。
水が与えられ、全身に栄養があふれ、タネはめざめる。

芽生えが大きくなり、きれいな花をつけ、そしてまたタネをつくった。

それから育てたのがこの苗です。

つまり、第二世代。

親は歴史上、最も高い場所で(350km)、
最も長い距離を、最も速く(時速28,000km)動いたアサガオです。
無重力で育てたら、どのように伸び、どんな風にツルが巻いたのでしょうか。
あるいは、どんな花が咲いたのでしょうか。

そんなことを想像しながら育てて下さい。
光を遮り、葉から水が蒸散し、少し涼しくなると思います。

じつは私たちもアサガオも、地球に乗ったまま宇宙を動いています。
地球の自転は秒速500m(地震で100万分の1.6秒早くなりました)、
地球が太陽のまわりを回る公転は秒速30km、
太陽系は銀河系といっしょに秒速600kmでうみへび座の方向に移動しています。

アサガオのタネを載せたエンデバーが打ち上げられたのは、2008年3月11日。
3年後の今、タネと一緒に宇宙へ出かけましょう。